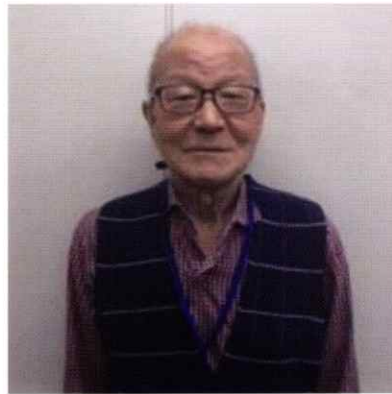


# 争議全面解決にあたって

支援共闘会議議長

伊藤 潤一



争議の全面解決をともに喜びあいたいと思います。この間、会社の異常な攻撃に対し不屈にたたかってきた京王新労組組合員にあらためて敬意を表するとともに、弁護団、支援をしていただいた方々に感謝いたします。

本争議の発端は、大幅な労働条件切り下げとセットとなった京王電鉄のバス部門分社化に連合労組が合意したことに対し、2001年11月14日、この合理化に反対する労働者が京王新労組を結成したことに対し、会社が一時金を不支給にし、全組合員を自宅待機にするなどの激しい攻撃を行い、不屈にたたかった京王新労組が2004年12月に全面勝利し全員職場復帰しました。

しかし、会社は職場復帰した組合員を敵視し続け、新たな評価制度まで作って賃金・昇格差別を行いました。会社の公式引き継ぎ文書に「許されるなら中央線の線路に突き落として下さい」と記載するなど、連合労組にとっては、連合の中に全労連の組合が存在すること、会社にとっては、従順な労働組合の中に、物言う労働組合の存在が許せない、と会社・連合労組が一体となって攻撃をしてきたことに対し、2012年1月に支援共闘会議を結成したのです。

京王新労組は、争議をたたかう中で春闘でのたたかいや連合労組組合員や子会社社員の労災認定、賃金未払い事件でも勝利のために奮闘し、連合労組の組合員を激励し、新労組に期待する連合組合員も多くいたと思います。

個々の組合員の差別是正を実現するには至らなかったものの、労働協約を締結して労使関係の安定を実現することにより、安心して働ける職場環境を確保し、労働条件の維持・向上を図るという労働組合としての存在意義を実現し、雇用の安定と働く者の健康の保持・向上を達成することについては、労使ともに努力することが確認されました。

11年という長いたたかいでしたが、新労組が本来の労働組合としての役割を發揮し、たたかい抜いたことに感謝するとともに、全面解決を踏まえ、京王新労組がバス労働者の生活と健康を守るたたかい、利用者の安全確保の取り組みをいっそう強化して欲しいと願っています。

# 解決を新たな力に

建交労東京都本部委員長

松田 隆浩



建交労東京都本部及び京王新労組支部の争議解決にあたって、支援していただいた皆様に心からの感謝を申し上げます。

争議の経過については別途示されていますのでいちいち繰り返しません。2001年11月に京王電鉄がバス乗務員の賃金・労働条件を大幅に引き下げる、バス部門の分社化を提案し、連合労組がこれに合意してしまったことがきっかけであったことは、強調しなくてはなりません。

京王新労組支部は、バス乗務員の賃金・労働条件を守ろうとする有志により結成され、産別としては全日本建設交運一般労働組合に加盟しました。

この決意の正しさが、2004年12月の第一次争議の勝利解決を導いたと言えます。

京王新労組支部の原則的態度を嫌悪した京王電鉄グループが、査定に名を借りた賃金・昇格差別に乗り出したため、2023年にまで及ぶ長期争議となり、2月24日一括解決となりました。

連合労組と同様の労働協約の締結など積極的な側面もありますが、長期にわたって累積した差別の是正が認められなかったのは非常に残念で苦々しい想いをぬぐうことができません。

今後は労働協約を武器に組合員を組織し、大企業京王グループの中にたたかう労働者の戦線を築くことが求められています。

少なくない活動家が退職年齢となっていて道は平坦ではありませんが、建交労東京都本部と固く結びあい拠点となる職場を作っていただきたい。

都本部は引き続き支援を強めますし、長年の争議を支援していただいた皆様にもお力をお貸ししたいと思います。

よろしく願いいたします。

# ついに解決、これからだ

京王新労組執行委員長  
佐々木 仁



長年の争議支援ありがとうございました。分社争議から22年、今回争議から14年のたたかいでした。京王新労組組合員の多くは京王新労組結成前からのたたかいです。私にとっては30数年のたたかいです。

京王新労組は2023年2月24日長年続いた京王電鉄との労働争議の全面和解が成立し、労働委員会で調印しました。2009年から続いた今回の争議は終結となります。

京王新労組組合員は、現役時代は賃金・昇格差別を、60歳定年を迎えると再雇用差別を、高年齢者雇用安定法の改正で60歳以降の雇用を義務付けられるとバス運転手をさせず、バスの清掃をさせられ見せしめにされてきました。残念ながら、これらの過程で職場を去らなければならなかった者たちも多くいます。また、このたたかいの解決を見ずに組合員二人が現職で亡くなってしまふなど傷を受けたのは事実です。そして、少なくない支援をして頂いた方々の中にも体調を崩された方、亡くなられた方も・・・。

この紙面を借りて解決のご報告とさせていただきます。

京王新労組組合は公共交通企業である京王電鉄をはじめ京王グループ各社に、労働者の権利を認めさせ、明るく展望と希望の持てる職場にすることで住民の足であるバス・電車の安全を確保することを求めて果敢にたたかいました。

今回、みなさんの支援で解決をかちとりました。しかし、これからも引き続きバス労働者、働く者の権利拡大に奮闘できるよう努力してまいります。

## 争議全面解決にあたっての声明

建交労東京都本部および同京王新労組（バス関連支部）は、差別攻撃に対して不当労働行為救済を求めたたかいを進めてきたが、2023年2月24日、東京都労働委員会において、京王電鉄及び電鉄バス（会社）との間で、係争中の争議を全面解決する合意を成立させた。

### [争議の経緯]

京王新労組は、2001年11月、京王電鉄がバス部門を分社化し、バス乗務員の賃金など労働条件を大幅に改悪することに反対の労働者によって結成されたが、会社が組合員全員を一時金不支給にし、自宅待機にするなど職場から排除する攻撃を行ったため争議となった。2005年に全員を職場復帰させる全面解決を勝ちとったが、会社は新たな査定制度をつくって職場に戻った組合員を賃金・昇格で差別するなどの組合攻撃を続けた。

そこで、2009年10月、組合は、東京都労働委員会に対して、差別是正を求め不当労働行為救済を申し立てた。2013年6月、都労委は、申立の一部を認め任用社員制度について差別是正の命令を交付した。だが賃金・昇格についてはこれを不当労働行為として是正させる救済命令には至らなかった。そのため、中央労働委員会、東京地裁での行政訴訟へと係争が継続されることとなった。

中労委では会社の職制が後任者への引継ぎ文書において、京王新労組に対して「許されるなら中央線の線路に突き落として下さい」という、あり得べからざる記載を残すなど、会社の組合に対する激しい敵意が暴露され会社の不当労働行為意思が露骨に示された。

他方、定年後の雇用に関して会社は、京王新労組の佐々木仁委員長の定年にあわせて雇用延長制度を次々と変更し低賃金でのバス清掃業務に従事させたうえ、さらには65歳での雇い止めを強行するなど差別攻撃を拡大した。組合は、新たな訴訟を提起して差別是正を求め、都労委にも申立を追加して救済命令を求めてきた。訴訟を通じての差別是正は実現しなかったが、都労委では審理のち和解勧告がされ、今回、争議全面解決を実現するに至った。

### [たたかいと解決]

組合は、労働委員会や裁判の手続きを通じて、差別を是正し、労働者の働く権利と団結権の実現を訴え続けるとともに、職場においても、バス労働者の長時間労働や交替制勤務、低賃金など苛酷な労働条件を改善し、働く者の生活と健康を守る活動に取り組んできた。支援共闘会議も、組合とともに会社に対する総行動や要請行動、街頭などでの宣伝活動にも取り組み、地域・産別の労働組合をはじめ、多くの労働者に運動を広げ、バスの安全な運行を願う市民のなかにも理解と支援を呼びかけてきた。

このようなたたかいを通じて、今回の全面解決に至ったものである。個々の組合員の差別是正を実現するに至らなかったものの、組合と会社との間で労働協約を締結して安定した労使関係を実現することにより、良好な職場環境を確保し労働条件の維持・向上を図るという労働組合の存在意義を実現するものとなっている。しかも、雇用の安定と働く者の健康の保持・向上を達成することについては、労使ともに努力することが確認された。

全面解決を踏まえて、組合は、引き続きバス労働者の生活と健康を守るたたかいを進め、争議を支援していただいた市民、労働者・労働組合とともに、働く者の権利拡大、労働条件向上を実現するための取り組みをいっそう強化する決意を固め声明とする。

2023年3月27日

建交労・京王新労支援共闘会議  
全日本建設交運一般労働組合東京都本部  
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
バス関連支部  
京王新労差別事件弁護団